子どもってね、本来みんな、「考える」ことが好きなんだよ。「考える」 ことは、とてもおもしろいことなのだから。

皆様

本日は、貴重なお休みの日に足をお運びくださいましてありがとうございます。

昨年の夏より、西宮市で個人塾を経営する先生４人で「子どもたちの成長につながる教育の在り方」について幾度も幾度も意見交換を重ねてきました。そして、昨今の中学受験の勉強が「考させる」ことよりも「大量にこなし、覚えさせる」こと中心になってしまっている、しかもどんどん低年齢化してきていることに危機をおぼえていました。

知能道場ライトスタッフは課題を自力で解決することを生徒に求めます。思考の自立のための練習をする場を提供したいためです。ここで鍛錬した子どもは、いざというときに持ち前の実力・応用力を発揮し壁を突破しています。苦しかったけれども自力で問題を解き抜いた経験が自信になっているようです。しかし、指導方針説明の不十分さなどの事情により、保護者の方および生徒さんを追い込んでしまい共に乗り越えることができなかったこともあります。そうならないためにはどうすべきか。その子が持つ本来の良さを最大限に伸ばせるようとことん寄り添う、なぜ思考の自立が大切なのか、思考の自立を見届けるためには大人がどのような意識でいるのが良いのか、それを伝えること、伝え続けることを諦めてはいけないのだと確信しました。そして、伝えるだけの一方通行ではなく、保護者の方と生徒さんご自身にも、どうすれば考える習慣が定着するのか考えていただき、話し合っていきたいと思っています。

今回、上述した先生たちとの研究会でしばしば出てきたのが「自立」というキーワード。そこで意気投合した倉田先生にゲスト登壇のご協力をお願いし、このようなかたちでトークイベントを実現することができましたこと、心よりありがたく思っています。

最上段に紹介したフレーズは、私が太田先生に「考えることが好きな子って、どうしたら育つの？」と聞いたときに返ってきた第一声でした。知能開発をする者としての在り方について、毎日毎日質問をしている私ですが、この返答を聞いたときはあまりにも太田先生らしいので笑ってしまいました。と同時に、私は心のどこかで「子どもは難しいことを考えるのは好きではない」という前提の信じ込みがあったのかもしれないと反省しました。自分の尺度で子どもたちを把握したがってはいけないと、日々自身に言い聞かせていたのですが…。

人が成長するとき、恐れを伴うことがあるとおもいます。良い状態からより良い状態に昇華できることもありますが、殻を破るためには目を背けたいことや認めたくないことにいったん向き合う必要があるかもしれません。そんなときはそばにいるから！そう思いながら、これからも保護者の方々や生徒さんたちと一緒に学び合い、高め合っていけましたら嬉しく思います。

２０２５年2月１１日　太田　恵